

令和7年度 第1回 鈴鹿市地域公共交通会議 議事要点録(案)

日 時	令和7年5月28日(水) 14:00~16:00	
場 所	鈴鹿市役所本庁舎 12階 1204会議室	
出 席 者	交通ジャーナリスト 鈴木 文彦(副会長) 中部大学工学部都市建設工学科教授 磯部 友彦(副会長) 三重交通株式会社企画部部長 小瀬古 恵則 三重交通株式会社中勢営業所長 谷 直人 三重交通労働組合中勢支部支部長 高橋 克典【欠席】 鈴鹿市旅客自動車協会鈴乃会会長 辻 泰生 一般社団法人三重県タクシー協会専務理事 景山 和 近畿日本鉄道株式会社名古屋統括部運輸部営業課課長 山本 淳 伊勢鉄道株式会社取締役 石野 雅美(監査委員) 中部運輸局三重運輸支局首席運輸企画専門官 石野 栄一 三重県地域連携・交通部交通政策課主事 奥田 健太(代理) 三重県鈴鹿建設事務所副所長兼保全室長 若林 信彦 鈴鹿警察署交通第一課課長 木村 智晴 鈴鹿市副市長 内藤 洋(会長) 鈴鹿市自治会連合会 会長 水野 克則 鈴鹿市老人クラブ連合会 会長 伊藤 壽一【欠席】 鈴鹿市老人クラブ連合会 女性部長兼副会長 北川 紗知子 鈴鹿市生活学校 会長 樋口 よしゑ【欠席】 鈴鹿商工会議所 副会頭 田中 久司 鈴鹿市社会福祉協議会 会長 亀井 秀樹(監査委員) 鈴鹿市旅客自動車協会鈴乃会 江並 史朗【オブザーバー】	

1 あいさつ

【事務局】

- ・報告事項（３）に関するオブザーバーとして、鈴鹿市旅客自動車協会鈴乃会から三重近鉄タクシー株式会社取締役支配人 江並氏が出席。
- ・会議は公開とし、議事要点録を後日市ウェブサイトへ公開する。

【会長】

- ・委員 20 名中 17 名の出席があり、会議成立を宣言する。
- ・「鈴鹿市地域公共交通会議傍聴要領」に基づき、傍聴人の入室を許可する。

【委員】

- ・資料 1 に基づき説明。

2 協議事項

（１）＜第 1 号議案＞ 令和 6 年度鈴鹿市地域公共交通会議事業報告（案）

（２）＜第 2 号議案＞ 令和 6 年度鈴鹿市地域公共交通会議決算（案）

【事務局】

- ・議案に基づき説明。

【会長】

- ・出席委員の 4 分の 3 以上の賛成があり、会議規程第 8 条第 4 項の規定に基づき、第 1 号議案、第 2 号議案は議決。

（３）＜第 3 号議案＞ 令和 7 年度鈴鹿市地域公共交通会議事業計画（案）

（４）＜第 4 号議案＞ 令和 7 年度鈴鹿市地域公共交通会議予算（案）

【事務局】

- ・議案に基づき説明。

【会長】

- ・出席委員の 4 分の 3 以上の賛成があり、会議規程第 8 条第 4 項の規定に基づき、第 3 号議案、第 4 号議案は議決。

3 報告事項

（１）鈴鹿市地域公共交通計画に位置付けた施策の令和 7 年度の実施内容について

【事務局】

- ・資料２に基づき説明。

【委員】

- ・施策３－１ ①鈴鹿市内地域公共交通時刻表の作成、配布について、SNS やウェブサイトへの掲載があれば紙の時刻表は必要ないのではないか、という意見が自治会の中から出ている。
- ・広告収入の面から全戸配布が必須であるという事情も理解できるが、作成について検討されてはいかがか。
- ・現状の冊子ではなく、A４両面印刷のような簡易なもので事足りるのではないか。

【事務局】

- ・ペーパーレス化について御指摘のとおりであるが、一方で紙面を必要とする方もいる。
- ・過去に、今よりコンパクトな時刻表を作成していたこともあるため、今後検討していきたい。

【委員】

- ・P２ 目標の数値は、交通事業者が現状のまま運行した上での数値なのか。
- ・人口減少・高齢化の中で、利用者数が回復するという根拠は何か。

【事務局】

- ・市民が外出を控えていたコロナ禍に立てた目標なので、コロナ禍前の水準を目標とした。

【委員】

- ・交通事業者が現在のダイヤを維持できる数値であるかどうかは検証していないのか。

【事務局】

- ・要因は様々あるため、検証は難しい。

【委員】

- ・施策１－２ P３に③の記載があるのに、なぜP４には③の記載がないのか。

【事務局】

- ・令和７年度についてはC－BUSのあり方を検討し、その結果によっては③に至るということである。

（２）デマンド型交通実証運行事業の結果について

【事務局】

- ・資料3に基づき説明。

【委員】

- ・一ノ宮地区は、過去に実証運行した乗合ワゴンにもあまり乗らなかった実績があり、周知が足りなかったのではないかな。
- ・乗合タクシーとバス停や鉄道などの交通網へのリンクできていなかったのではないかな。
- ・もっと地域に入って、地域の需要を聞いて実施したら良い結果が出たのではないかな。
- ・人口が少なく、利用頻度も少ないような地域で実証するのではなく、もっと人口が多く、利用頻度の高い地域で実証すべきである。
- ・高低差のある団地や高校生の通学手段、免許返納をした高齢者などの需要を聞くべき。
- ・自治会やまちづくり協議会を活用し、明和町のような先進地を参考に調査し、進めていけないといけな。
- ・バスは、主に通勤・通学に利用される朝夕しか乗っていないので、昼間の時間帯に、デマンド交通を利用してもらってはどうかと思う。
- ・タクシー事業者だけでなく、三重交通にも協力いただいて、予約のある時間帯だけ運行すればよいのではないかな。
- ・鈴鹿市は、ほとんどの方が自動車を運転して移動している状況であるため、デマンド交通は高齢者や障がいのある方などを利用者として想定して考えていけないといけな。

【事務局】

- ・実証運行地域については、公共交通機関のサービスが十分でない地域、既存の交通機関と競合しない地域、デマンド型交通の利用意向があり、実証運行時の利用が見込める地域、という視点で選定させていただいた。
- ・デマンド型交通を選択肢のひとつとして、地域に合った持続可能な交通サービスを検討していきたい。
- ・引き続き地域の方々とはよく話し合い、ニーズを聞いていきたいと思う。

【委員】

- ・実証運行をして人々が全然乗らなかったのであれば、逆にどのような交通であれば乗るのかというアンケートをしてはどうか。
- ・必要とされないデマンド型交通であれば、高齢者にタクシー券を出すような施策の方が有効だと思う。
- ・伊勢市では、バスとタクシー両方を共有して使える券を出している。
- ・地域主体でデマンド交通を走らせるには、地域で乗る人を集めないと交通事業者は走らせてくれないという意識が地域にはある。
- ・「いつか乗る」というような意識では、今乗るわけがない。
- ・デマンドを安いタクシーのような使われ方をすると、既存交通に需要がなくなり、交通事業者は撤退していく。

- ・地域住民に、移動する目的について調査すべき。
- ・C－BUSは、開始当初、住民がこういう路線でここから乗って、という要望を議論して、実際に地域住民が乗り、成功した。
- ・当時の市の担当者は、地域に入り込んでニーズを聞いていたので、今後もその必要があるように思う。

【委員】

- ・デマンド交通で赤字にならなかったという事例は全国にない。
- ・どれだけ赤字を圧縮して住民が乗るのかだと思ふ。
- ・デマンドは、地域内での地域内支線という考え方には賛成である。
- ・「乗りたい停留所がない」という意見があったが、どこの停留所にいけばどこまでいけるのかわからないパンフレット、ウェブサイトとなっている。
- ・乗り継ぎ拠点の整備などまだ工夫する余地はある。
- ・今交通空白地域となっている地域でデマンド交通をやるということについても賛成。
- ・もしまた実施されるのであれば、どこへいきたいかをもう一度把握して、行きたい場所に行けるようにするべき。
- ・半年では周知が難しく、パンフレットでの周知など、こういうものは徐々に増えていくと思うので、がんばってほしい。

【事務局】

- ・できるだけ赤字を減らすように、曜日を限定したり、時間帯を限定したり、協賛金をいただいたりなど今後の課題をひとつずつ解消していきたいと思う。

【委員】

- ・地域主体の取組について、市の長寿社会課の事業で、地域づくり協議会の会員の車で付添支援という形で実施している。
- ・利用の多い地域は旭が丘、稲生で、年間 300 件程度。
- ・やむを得ず実施している側面もあり、事故の心配も懸念される。
- ・2 地区で 2000 万円かかっているが、市内全域で考えたらどうなのか改めて全庁的な体制の中で整理をしていくべき。
- ・市民からのニーズはあるので、限られた予算の中でどうしていくかを考えるべき。
- ・住民の移動手段の確保というのが原点なので、公共交通としてできること、できないことを整理して、できないことであれば付き添い支援のように地域でやっていくなど、市全体の中で議論していったらどうか。
- ・地域でもがんばっているのだから、そこへも目を向けて支援策を考えていただきたい。

【事務局】

- ・これまでも全庁的に情報共有は行っているが、引き続き共有し、議論を重ねていきたい。

【副会長】

- ・デマンド型交通実証運行事業を実施したことによる良い点は、結果が出たということと、これについて議論ができたということだと思う。
- ・この結果を用いて今後どうしていくかを考えていただきたい。
- ・資料3 P27「シティモビすずか」を利用しなかった理由について、「自分で車を運転できる」という人は今回の事業の対象外だったと認識すべき。
- ・現状は必要ないが、運転できなくなったときのために、この対象外の方々に参加してほしい。
- ・デマンド交通は、ラストワンマイルをなんとかしようという取組で、地域内を、交通路線をつながないと意味がない。
- ・交通空白というのは、地域的な空白、時間帯空白（路線はあるがこの時間帯動いていない）であり、個人的空白（自分にとっては空白）については福祉的な支援につながるため、これを把握しておかないといけない。
- ・地域にどれだけの心意気で取り組んでもらえるかが課題となってくるのではないかな。

【副会長】

- ・実証運行の結果が出たので、デマンド交通がこの地域に合っていたのかを今後分析していくこと。
- ・どこの地域でも、結果にそれほど差はなく、本格運行には到底つなげられないという結果となっている。
- ・デマンドありきで進めている地域ばかりなので、本当にデマンドというやり方がよかったのかを分析していくべき。
- ・わずかな人のためにデマンドを走らせたという分析が必要。
- ・地域の中の移動の手法は様々で、それぞれが役割を果たせるようにつながっていくことが地域の交通ネットワークだと考える。
- ・委員がおっしゃったように、日中、既存の交通機関とデマンドと役割分担できないかということとはどこの地域でも議論されている。
- ・宮城県の利府町では、バス事業者が朝夕バスを運転し、高校生の通学に利用してもらい、日中はハイエースを運転してデマンドに切り替えているという事例がある。
- ・地域的な役割分担というものをこれからも考えていかななくてはならない。
- ・これからも多方面から分析して次に活かしていただきたい。

【委員】

- ・C－BUSのバス停から家までのラストワンマイルをどうするか、デマンド交通で大丈夫なのかという不安を感じている。
- ・デマンド以外の方策についても考えていかないといけない。
- ・持論ではあるが、自動運転のモビリティをリースで貸すなどの取組を考えていかないと

いけないのではないかと。

- ・地区市民センターに集まって、自動運転のモビリティに乗ってC－BUSに乗るといふようなことができると、集まった方の話もはずむのではないかと。
- ・バスに自分で乗れない人については福祉の面から考えてもらってはどうか。

【会長】

- ・たくさんの議論をいただいたので、引き続き分析をしていただいて次に活かしていただきたい。

(3) SUZUKA F1GP 帰宅客にかかるタクシー対応について

【委員】

- ・資料4に基づき説明。
- ・次年度以降は名古屋方面も検討したい。

【委員】

- ・皆様のご協力にお礼申し上げます。
- ・北勢圏だけでなく、隣接圏からも協力いただき、お客様の待ち時間を短縮できたので、来年以降もご協力のほどよろしくお願いしたい。

4 その他

【委員】

- ・F1について、金曜日の市内渋滞が激しいため、輸送に限界を感じており、どれだけバスがあっても足りない状況である。
- ・例えば市内の事業者様に休業していただく、サーキットにつながる道の利用を控えていただくというような協力が必要なほどである。

【委員】

- ・1時間以上バスが戻ってこないという状況があった。
- ・対策については鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会で話し合っていきたい。

【委員】

- ・F1のときの白子駅のコンコースは満杯で、色々な切符でお越しいただくため、改札をスムーズに通れない。
- ・平田町駅ヘルートを案内したが、うまく浸透していない。
- ・利用客の3割はインバウンドで、高田高校、飯野高校の通訳ボランティアや、通訳を雇っているが、この先は持ちこたえられないのではないかと、という危機感がある。

- ・交通事業者だけでは対応しきれないので、今年１年かけて関係機関に呼び掛けていかないと今後の対応が危惧される。

【委員】

- ・F1について、主催者側で、帰りのお客様が待機できるような場所を確保していただかないと、現状では駅で滞留しているため、事故が起こりかねない。
- ・行政・警察の協力をよろしくお願いしたい。

【会長】

- ・インバウンドが増えたというのは鈴鹿市としては喜ばしいことだが、一方で対応が追い付かないということもわかった。
- ・別途専門の会議があると思うので、そこで議論いただきたい。

【委員】

- ・デマンド交通について一定のデータが出てきたので、今後活用しながら地域ネットワークをどう形成していくのか、という議論を今後していけたらと思う。
- ・そうしたきっかけになったと思うので、本日の資料はじっくりご覧いただき、次回は分科会で改めて詳しい議論ができたらと思う。

【委員】

- ・まちづくり協議会が活発化していると聞いているので、交通について協議会で話し合っていただけのようになれたらよいと思う。

【会長】

- ・議事進行への協力や貴重なご意見を賜り感謝申し上げます。

【事務局】

- ・長時間にわたり活発な議論をいただき感謝申し上げます。
- ・本日の協議を踏まえて、施策の取組内容等を整理させていただき、議事要点録を委員各位に共有させていただく。
- ・次回は鈴鹿市地域公共交通会議分科会を７月に開催予定である。

以上、16時6分終了